

学校教育目標	◎よく考え <平成31年度～令和3年度重点目標> ○やさしく ○つよく 手をつなぐ 拝島の子供	ビジョン	【目指す学校像】	「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…○子供にとって安全・安心な学校 ○教職員が互いに高め合う学校 ○保護者や地域とともに子供を育む学校
			【目指す児童像】	「あい」のある子供…○学び合う子供 ○思い合う子供 ○鍛え合う子供 ○繋ぎ合う子供
			【目指す教師像】	「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力) & innovation(革新性) & idennity(共同体意識) のある教職員

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	《V1》 学校体として、組織的・計画的に、確かな学力を育みます	M1:学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4	4 学力調査平均正答率が、全国比3P↑	1	学習スタンダードの定着は9割以上の学級で達成。朝学習の系統化が進んできたが、学年学級差が依然として見受けられる。	2	家庭学習の定着については、家庭の協力に係るところが大きく、引き続き家庭へのほらさかけを続けていってほしい	学力向上プロジェクトチーム(PT)を中心に、「学力向上中期プラン」を策定し、4月より運用を開始する。(教務部・学力PT)
			②朝学習の充実(週4回)	3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		3 学力調査平均正答率が、全国比2P↑					
			③ICT機器の活用(日1回)	2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した		2 学力調査平均正答率が、全国比1P↑					
		M2:生きる力に係る児童の資質・能力の育成について指導法の研究を進めます。	④補習活動の充実(土曜+平日)	1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	1 学力調査平均正答率が、全国比改善なし						
			①校内研究会(年間7回)	4 教職員全員が、主題にかかわる授業研究を行った	4 学力調査平均正答率が、全国比3P↑	1	児童の資質・能力を育むICTを活用した指導法の工夫について研究に取り組んだ。全教職員が2回以上授業研究を行った。	3	教職員が新型コロナウイルス感染症の感染予防対策と同時に、子供の学びを止めないことや指導力の向上することに精進を続ける、その姿勢に敬意を表	児童の「資質・能力の育成に関する指導法の工夫」について研究を進める。ICTの活用は、指導法改善の手立ての一つとする。(研究・研修部)	
			②授業実践研究(全員授業)	3 9割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	3 学力調査平均正答率が、全国比2P↑						
		③研究の発表・報告(紙上)	2 8割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	2 学力調査平均正答率が、全国比1P↑							
		M3:ICT機器やデジタル教科書、思考ツールを活用した学習を進めます。	①週1回の指導計画確認(37回)	4 全ての教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った	4 学力調査平均正答率が、全国比3P↑	4	タブレットを児童の学習ツールとしての活用する方法について、全教職員で共通理解した。オンライン授業は全学級で実施している。	1	タブレットを活用した学習については、今後も推進していきたい。児童のリテラシーを組織的、計画的に育てていってほしい。	3	東京都の「人材育成プラン」に基づき、主幹・主任教諭を中心に、教職員のOJTを進める。キャリア形成についても計画的に行う。(研究・研修部)
			②授業観察・指導(年2回)	3 9割の教職員が、年間指導計画に基づく指導を行った	3 学力調査平均正答率が、全国比2P↑						
③OJT研修(年間8回)	2 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った		2 学力調査平均正答率が、全国比1P↑								
豊かな心	学校体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	M4:いじめや不登校の未然防止の指導と即時対応の体制を整えその徹底を図ります。	①「生活のきまり」の徹底(言葉遣い・時間厳守)	4 全ての教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った	3	4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	生活スタンダードの定着は9割以上である。重点項目「挨拶をする」は全児童が達成した。いじめの予防指導は課題である。	3	「いじめに関する指導」の全体計画及び規範順守の徹底については重点的に指導を進めていく。校内いじめ対策会議の活用を図る。(生活指導部)	
			②いじめ対策PTの活用	3 9割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
			③いじめガイドラインの見直し	2 8割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った		2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
		M5:道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみ、地域ぐるみの道徳教育を進めます。	④保護者への啓発(年3回)	1 7割の教職員が、生活のきまりに基づく指導を行った	1 いじめ・不登校の出現回数改善なし						
			①道徳授業地区公開週間(年1回・平日公開)	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した	4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	3	道徳授業地区公開講座は、授業実践を行ったが、書面公開となった。6年総合の「輝く未来」では、生き方に関する学習を深めることができた。	2	児童がよく挨拶する姿を見かけ。学校の取組みに感謝したい。規範意識は、保護者をはじめ大人の責任が大きい。啓発を続けていただきたい。	3	学校からの「情報発信に関する年間計画」を策定し、4月より計画的に情報提供と啓発を進めていく。(教務部広報担当)
			②評価に関わるOJT研修(1回)	3 9割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	3 いじめ・不登校の出現回数2割減少						
		③保護者への啓発(年3回)	2 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	2 いじめ・不登校の出現回数1割減少							
		M6:全学年で飼育・栽培活動に取り組み、生命尊重や思いやりに関わる実践を進めます。	④心に輝く花いつい活動(年2回・委員会)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った	4 児童・保護者の学校評価関連項目の指数の3P改善	3	1年間に渡り花が絶えない学習環境の整備を進めた。児童のより積極的な活動を促していく。5年総合「米作り」は、地域と連携して新単元を開発した。	1	感染対策が続く中で、児童の様々な体験の機会が制限されている。体力と同様に、学校教育の中での体験活動を大切にしていってほしい。	2	人権教育に関する「中期計画、年間指導計画」の見直しを行い、形成的な検証と評価、改善を進める。(生活指導部人権担当)
			②稲作体験開始(5年生)	3 9割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	3 児童・保護者の学校評価関連項目の指数の2P改善						
③保護者による環境整備(BTA活動として)	2 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った		2 児童・保護者の学校評価の関連項目の1P改善								
健やかな体	《V3》 学校体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	M7:運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った	2	4 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	1	杯一ピックや持久走中間、縄跳び月間等の基礎体力、運動能力の向上を図る取り組みを進めた。学級による取組の差が大きい。	2	「授業改善プラン」に基づき、体育科の指導法改善及び体育的活動の見直しを進める。(体育的活動担当・学力PT)	
			②補強運動の導入 b(毎時)	3 9割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る		3 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
			③運動週間(年3回)	2 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る		2 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
		M8:保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	④運動週間(年3回)	1 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	1 4割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る						
			①保健指導計画改訂(2月)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った	4 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	3	新型コロナウイルス感染症の予防指導や、生活リズムの習慣化等の情報発信を定期的に行ってきた。	1	ゲームやスマホの依存について、ノーメディア・デーなど学校の取組みをありがたく思う。ファミリールールなど家庭の取組みが課題である。	3	家庭との連携を図り生活リズムの確立に関する新たな取り組みを進め、同時に啓発活動を強化していく。(保健安全部)
			②家庭への啓発活動(学校・学年・保健通信(毎月))	3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る						
		③学校保健委員会(年1回)	2 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	2 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る							
		M9:安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	④保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし	1 7割の学級が、保健指導を計画的に行った	1 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る						
			①安全教育全体計画改訂	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った	4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	3	日常生活や災害時の自助・共助に関する指導を計画的に実施した。学校や家庭における安全指導をさらに進める必要がある。	1	自助だけではなく共助の力を、学校が計画的に指導していることはとてもよい。災害をはじめ多様な危機回避、危機管理の術を身に付けさせてほしい	3	「安全教育全体指導計画」を見直し、特別活動学級指導・学校行事との関連を明確にし、より実践的な資質や能力を養う。(保健安全部・特別活動部)
②避難訓練の改善(11回)	3 9割の教職員が、安全指導を計画的に行った		3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P								
③安全指導の充実(11回)	2 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った	2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P									
輝く未来	《V4》 学校体として、組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	M10:話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(4・5月)	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った	3	4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	3	SDGsに係る総合的な学習のカリキュラム開発を進めた。地域の協力を得て、5年の稲作体験活動を取り入れた単元開発を行った。	3	SDGsの視点から教育活動を再構成することは今日的な課題で重要である。5年の稲作活動が新たに開始されたことは、とても意義深い。	学級活動年間指導計画の改定を行う。学級活動の指導法に関する研修を実施し、教職員の指導力を向上させた。(特別活動部)
			②学級会活動(年9回以上)	3 9割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った		3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
			③SDGsに係る探究活動のカリキュラム化(総合的な学習の時間等)	2 8割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った		2 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下					
		M11:ハイパーQUやプログラムアドベンチャー(PA)、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	④SDGsに係る探究活動のカリキュラム化(総合的な学習の時間等)	1 7割の学級担任が、学級会活動を7回以上行った	1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が4割以下						
			①ハイパーQUの活用(2回)	4 全ての学級担任が、PAを7回以上行った	4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	2	ハイパーQUの活用に関する項目を学級経営案、教科経営案に設定し、個や集団の育成に関する教職員の意識化を図った。	2	児童の心の問題について、学校は丁寧に対応していき、長引く感染対策の中で、一人苦しんでいる児童もいると思われる。	2	「不登校の対応マニュアル」を見直し、組織的・計画的な実践を強化する。その際、SCやSSWの活用方法も明確に位置付ける。(生活指導部・SC)
			②PAの活用(年3回以上)	3 9割の学級担任が、PAを7回以上行った	3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P						
		③SCの全員面談(高学年)	2 8割の学級担任が、PAを7回以上行った	2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P							
		M12:自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	④SCの全員面談(高学年)	1 7割の学級担任が、PAを7回以上行った	1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし						
			①校外学習の全面見直し	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した	4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P	4	感染症対策により、学校行事の実施については柔軟に対応せざるを得なかった。外部教育力についてはその活用が、進んだ。	2	子ども会活動を取りやめる自治会が続出している。既存の健全育成の活動が難しくなっている。新たな枠組みについて早急に検討すべきである。	3	教育活動に関するPTAや地域等の外部教育力の活用をマネージする「学校支援本部」を組織化し、9月より運営を始める。(経営会議・学力PT)
②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回)	3 9割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した		3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P								
③宿泊行事の充実(高学年)	2 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P									
			④宿泊行事の充実(高学年)	1 7割の教職員が、外部教育力3回以上活用した	1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし						